

平成 30 年 1 月 10 日

## 昔話と言葉⑥

高橋実

### 一矢報いる

一矢(いっし)を報(むく)・いる敵の攻撃に対して、矢を射返す。転じて、自分に向けられた攻撃・非難などに対して、大勢は変えられないまでも、反撃・反論する。**ウイット** 気のきいた会話や文章などを生み出す才知。機知。とんち。「ウイットに富んだ会話」

**ペン**は**剣**よりも**強し** イギリスの政治家・小説家ブルワー・リットンの戯曲『リシュリューー』にある「The pen is mightier than the sword.」の訳。文章で表現される思想は世論を動かし、武力以上に強い力を発揮するということ。**一本取られた**とは、やられた、負けたというニュアンスです。相手にうまく言いくるめられたり、相手はずばり的確なことを言い、こちらが何も反論できない場合などの場合に一本取られたと言います。

### 例話

①**匂いの代金** むかしあるまちにたいそうケチな男が住んでいた。飯を食うにも梅干をじっと見ていて、すっぱい唾が出てきたら急いでご飯をかき込む具合だったと。ところが毎日毎日梅干しばかり見ているものだからそろそろ飽きがきて、たまには変わったもんで飯が食いたくなると。あるとき何かいいもんがないかと町をあるいていると、向こうからぷーんという匂いがしてきた。うなぎやが店先でウナギお蒲焼をやいてあったと。男は急いで家にもどると、その店先でにおいを嗅ぎながら飯を食いだしたと。これを見ていたうなぎ屋の主人が「お客様代金をいただきます」といったが、男は「わしはウナギを食うておらん匂いを嗅いだだけだ」というと、主人は「ですからその匂いの代金をいただきます」という。こちらもたいしたけちぶりだ。「よしわかった。そこまでいわれて払わなかったら、この男がすたるというものだ。払いましょう」と言って財布を取り出した。財布をとりだして、小銭をチャリンチャリンといわせて、「おやじ匂いの代金は音で支払ったぞ」というた。 (フジパン 東京都の昔話) から)

### ②屏風の虎

一休さんのとんちの評判を聞いて、殿さまがお城に一休さんを招き入れました。「さっそくじゃが、そこにあるびょうぶのトラをしばりあげてくれぬか。ほと困っておったのじゃ」もちろん、びょうぶに描かれた絵のトラが出てくるなんて、うそに決まっています。しかし有名な絵描きが描いたのでしょうか、びょうぶに描かれたトラはキバをむいて、今にも襲いかかってきそうでした。「本当に、すごいトラですね。それでは、しばりあげてごらんにいれます。なわを、用意してください」「おおっ、やってくれるか」「はい。もちろんですとも」一休さんはそう言うと、ねじりはちまきをして腕まくりをしましたそし

て家来が持ってきたなわを受け取ると、一休さんは殿さまに頼みました「それでは、トラをびょうぶから追い出してください。すぐに、しばってごらんにいれます」それを聞いた殿さまは、思わず言いました。「何を言うか！びょうぶに描かれたトラを、追い出せるわけがなかろうが」すると一休さんは、にっこり笑って言いました。「それでは、びょうぶからはトラは出て来ないのですね。それを聞いて、安心しました。いくらわたしでも、出てこないトラをしばる事は出来ませんからね」それを聞いて、殿さまは思わず手を叩きました。(福娘童話集)

### ③利口になる薬

心に残ったのは星野百合子さんが語る「利口になる薬」だった。殿様が田を打つ男に鍬を何回打ったか聞く。男は、では殿様の馬は何歩歩いたのかと反論する。殿様は怒ってこの男を殺そうと毒の入った薬を「利口になる薬」と言って渡す。男はその薬を捨てて飲まず、その後元気な男を見つけた殿様は、その理由を聞く。男はもらった薬で利口になったといふので、殿さまも利口になろうとして薬を飲んで死んでしまう。権力への庶民の反撃である (柏崎あったか昔話 平成 29 年 11 月 19 日)